



伝統構法
に学ぶ

住まい 涼木

その8

文・荒野一星

第一部
「あきらめないで！ 口から食べること」

角町正勝氏(歯科医)

坂の街、長崎。急斜面の土地に住まう、介護を必要とする高齢者や寝たきりの患者。医療・介護の現場と連携しながら、毎月、在宅と施設、約200名の訪問診療を続けている角町さん。「あきらめないで！ 口から食べること」を。生きる力を取り戻すことを！ 淡々と静かな語り口の中に、深い使命感が滲む。

人は口から言葉を発する。口から食べ物を体内に摂取する。言葉と食物の出入口、「口」。心身共にサイロイドであるための要が「口」。人体は、食べ物が口に入ることによって、脳が信号を受信し、胃液が準備され、全体の臓器が一連の循環として働くようになってきている。口を使わない経管摂取が続くと、小腸の絨毛が萎縮。細胞数が減り、免疫力が低下するとい

う。体内の免疫細胞の6割は腸管にあるからだ。

言葉は、食べる行為の延長線上にある。言語障害を伴う脳梗塞などの場合、食べる訓練

「部分」全体。全て「ひとつ」。

前回に引き続き、今回も6月12日に開催された「夢木香10周年記念講演会」から、第一部の講演内容をレポートさせていただきます。

が「心の出口」を開き、言葉につながる。

医療に限らず学問の鉄則は、生命を部分としてではなく、全体として観ること。現代科学も含めてアカデミズムの傾向は、すべてを分離し、切り離した断片として見る。断片を繋ぎ合わせての全体なのに、断片に囚われて全体を眺ようとしな

い。すべては宇宙全体、人間の全歴史にまで繋

がっているのだという発想は皆無。そこから生まれるのは、堂々巡りの混乱だけ。

「積尊は「諸法無我」と言った。科学も例外ではあり得ない。科学も無我。我をもっているものではない。人が知情意し、行為することから、そうした本能的な生活感情を抜くのが科学。科学をすることを知らない者に科学を教えると、主張のな

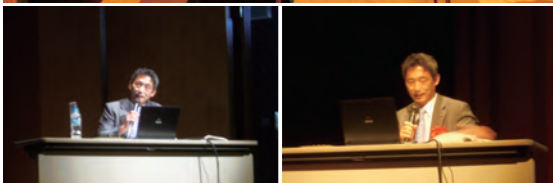
い科学に、勝手に主張を入れてしまう。その惨状は、連日の原発報道を見れば一目瞭然。

そんな中で、角町医師のように、「生命の観点」という中心軸から外れることなく、本気で行動している人々が着実に増え続けているのは、心強い限りである。内科も外科もない。生命を全体として観じ、「部分」全体。全て「ひとつ」を認識してこそ

の生命科学。医療の世界の角町医師のように、今、あらゆる領域で、人々は生命の本質に深く気づき、常識に囚われず、独自の表現を始めていく。

夢木香の松尾代表もその一人。自然素材の家づくりをすすめる夢木香の講演会に、何故歯科医が？ 生命を守る母胎空間としての住まいの出入口、「口」にフォーカスして、生命全体を観る。どちらも生命の奥深さに真摯に向き合う表現に他ならない。この「生命の視点」なしの文化活動やまちづくりは、無駄を増殖するだけである。

会場を圧した拍手の渦は、そのことに対する深い共感の響きなのだ。合掌！



有限会社 夢木香

日本民家再生協会正会員
佐賀県鹿島市大字三河内甲 2847
http://www.yumekikou-happy.com
☎0120-835-832
TEL:0954-69-8333 FAX:0954-69-8334
E-mail:yumekikou@globe.ocn.ne.jp

第9回夢木香セミナー 親子でつくりよう木工教室 2011・夏

日時：8月21日(日)
13:00～17:00
場所：奥平谷キャンプ場
(鹿島市山浦国有林内)

- 参加費無料。
- お問い合わせとお申し込みは夢木香までお願いいたします。

